

人気声優が義朝伝説を語る!  
朗読劇後のトークショーも必見!

声優朗読劇フォアレーゼン  
武豊オリジナルストーリー

源義朝「ここに一ふりの太刀ありせば」



©泡汰

入浴中に殺されたお侍さん

子どもの頃、「源義朝」というお侍さんが入浴中に殺され、「我に木太刀の1本でもあれば…」と言い残して無念の死を遂げたという言い伝えが、知多郡美浜町の野間大坊にある、という話を聞いていた。野間大坊には、義朝の霊を弔うためにたくさんの木太刀が奉納されたお墓（木太刀塚）があり、義朝の首を洗ったとされる血の池もある。

「源義朝」とは、いったいどういう人だったのか、なぜ落ち延びねばならなかったのか？そして、なぜ野間の地で殺されてしまったのだろうか？

「源義朝」って誰？

このたび郷土の歴史を朗読劇にするにあたり、そもそも義朝って、「鎌倉幕府」を作った源頼朝のオジサンかなんかだったっけ？くらいの情けない認識で歴史を調べ始めた。すると、ややや？オジサンじゃなくて、お父さんだ!?…しかし、この時点で、まだ私の頭の中では「キムタクのお父さん」くらいの扱いで、この人がはたして朗読劇の主役になるんだろうか…と思っていた。

NHK大河ドラマ「平清盛」

若手人気声優さんたちの朗読劇なので、広報のためにイメージキャラクターを制作することになった。そこで、名古屋芸術大学学長を務める本館の竹本義明館長に、イラストレーターの泡汰さんを紹介してもらった。制作にあたって、泡汰さんに資料を提供する必要がある。現代風のイラストを描いてもらうにしても、まず、当時の衣装を知ることが「基本のキ」。武具の仕組みや、刀の柄ひとつとっても、いったいどうなっているのか？

ところが、時はコロナ禍自粛の真っ最中。図書館は開いていない。インターネットで情報を集めつつ、そうだ、源平といえば平清盛だ！と思いつき、2012年に放送されたNHK大河ドラマ「平清盛」のDVDを借りて走った。

イケメンの源義朝

大河ドラマ「平清盛」では、松山ケンイチ扮する平清盛の好敵手として、義朝が登場。義朝役の玉木宏の白い鎧には高貴さと悲壮感が漂う。絵巻で見るとお腹の出たオジサンだが、大河ドラマの義朝はイケメンだ。いや、そんな話ではなく、関東の覇者源為義の嫡子源義朝は、自分たちの権力と欲望にまみれて内紛を繰り返す貴族の政治から、武士の台頭する世を目指す。そして、義朝と清盛は共に保元の乱を戦うことになるのだ。

親兄弟、親族が戦う骨肉の争い「保元の乱」

「保元の乱(1156)」は、平安末期に起きた内乱である。発端となったのは、崇徳上皇と後白河天皇の兄弟による実権争いであり、藤原摂関家の藤原忠通と藤原頼長の兄弟による争いでもある。「崇徳&頼長」組が反乱を画策しているとのウワサが流れたため、怒った後白河天皇は、彼らに兵士を集めることを禁止し、財産をも没収してしまった。これに反発した「崇徳&頼長」組は、源氏の棟梁源為義や、その息子源為朝、そして平氏からは清盛の叔父である平忠正らとともに、挙兵する。それに対し、「後白河&忠通」組には、為義の長男で為朝の兄である源義朝、そして忠正の甥平清盛がつき、まさに両軍とも親兄弟、親族が血で血を洗う骨肉の争いとなった。(どれが誰…？泣)

この保元の乱は、「後白河&忠通」組の勝利となった。源義朝は、後白河天皇に、敵方となった父 為義の助命を再三願い出るもかなわず、義朝の父 為義は斬首となってしまふ。

